

原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2017年8月」

2017年

- 8月1日 関西電力が、廃炉が認可された美浜原発1号機の配管などに付着した放射性物質を薬品で除去する作業に取りかかり、本格的な廃炉作業を開始。2号機も11月ごろに始める。廃炉に伴う加圧水型軽水炉の系統除染は国内初。
- 8月1日 **米スキャナ電力が、ウェスチングハウスに発注した原発2基の建設を断念すると発表。地元住民やサウスカロライナ州政府が東芝などに損害賠償を求める可能性もある。**
- 8月2日 午前2時02分頃、茨城県北部を震源とするM5.5の地震が発生。福島県から関東地方の広い範囲で震度4の揺れを観測。
- 8月2日 午前7時16分頃、茨城県南部を震源とするM4.6の地震発生。茨城県を中心に震度4の揺れを観測。
- 8月2日 3年ぶりに見直すエネルギー基本計画において、原発の新設や建て替えについて明記を見送る方向で検討。
- 8月2日 東京電力が、2月に実施した福島第一原発2号機の原子炉格納容器内の調査で発表した放射線量の最大値を毎時650シーベルトではなく80シーベルトだったと下方修正。
- 8月3日 東京電力が、福島第一原発4号機の近くにある地下水くみ上げ用の井戸の水位が急低下し、原子炉建屋の地下に滞留する高濃度汚染水の水位より低くなったと発表。4号機の原子炉建屋から南西に11メートル離れた井戸で2日18時半ごろ発生。約90秒で水位が2.2メートル下がり、建屋の滞留水より約1メートル低くなった。井戸は自動停止し、水位は徐々に回復して20分余りで逆転状態が解消した。
- 8月4日 東京電力柏崎刈羽原発6、7号機の安全性評価の追加調査を行った国際原子力機関(IAEA)のタレン調査団長が、重大事故発生時の手順書について、「運転中、停止中の双方に関して幅広く整備している」、「全項目で進捗」と評価。
- 8月4日 愛媛県の住民が四国電力伊方原発3号機の運転差し止めを求めた仮処分申請を却下した松山地裁決定を不服として、高松高裁に即時抗告。

- 8月4日 「原発ゼロをめざす鹿児島県民の会」が、九州電力川内原発の40年を超える運転を認めず、廃炉にするよう求める申し入れ書を三反園訓鹿児島県知事宛に提出。
- 8月5日 原子力規制委員会が、中部電力浜岡原発4号機の審査会合で、敷地周辺の29本の断層を「震源として考慮すべき活断層」と判断した中電の評価を了承。
- 8月6日 被爆から72年となる広島原爆の日を迎える。
- 8月7日 四国電力が、伊方原発から搬出した低レベル放射性廃棄物のうち、搬出前に放射能濃度などを確認する装置に不具合があり、日本原燃に報告するデータの一部が不足していたと発表。
- 8月8日 九州電力が、川内原発1、2号機、玄海原発3、4号機の運転訓練用施設に炉心溶融事故の模擬訓練をするシステムを導入すると発表。
- 8月9日 被爆から72年となる長崎原爆の日を迎える。
- 8月9日 経済産業省が、エネルギー基本計画の改定に向け有識者会議の初会合。原発の新設を盛り込むかどうかを巡り、経産省は再稼働が進展しない現状も踏まえ、計画の大幅見直しには慎重な姿勢。
- 8月9日 東京電力福島第一原発事故後、敷地内にあった車両のうち、社員の自家用車など約460台が放射線検査を受けず外部に持ち出され、うち約190台は国の基準を超える汚染を計測したことが判明。一部は中古市場で売られていた。行方が分からない車両が2台ある。
- 8月9日 中部電力が、浜岡原発3号機の2016年4月の塩分除去フィルタが破損し、水をためた圧力抑制室内に異物が混入した件で、異物約4・9キロの回収をすべて終えたと発表。
- 8月9日 高速増殖原型炉もんじゅを巡る地域振興の要請に訪れた西川一誠福井県知事らに、林芳正文部科学相が「原子力機構は今月末に原子力規制委員会への廃止措置の認可申請を行う準備を進めている」と理解を求めた。
- 8月10日 東京電力が、福島第一原発の敷地内での駐車場の造成工事中に、地中から長さ約85センチ、幅約15センチの不発弾のような物体が見つかったと発表。
- 8月10日 原子力規制委員会が、東北電力が示した女川原子力発電所2号機に影響を及ぼす最大規模の地震の揺れの想定、最大1000ガルをおおむね了承。

8月10日 四国電力が、伊方原発3号機の原子炉建屋内で、保守員が作業中に火災感知設備のケーブルを誤って切断したと発表。火災などの被害はない。

8月10日 原子力規制委員会が、再稼働を目指している九州電力玄海原発3、4号機と関西電力大飯原発3、4号機の設備設計についての審査会合を終えた。ただし、別の審査も残っており、再稼働は今冬以降に遅れる公算が大きい。